

第3回那須塩原市総合計画審議会

開催年月日：平成23年5月18日

開会時間：午後2時00分

開催場所：西那須野庁舎301・302・303会議室

委員

No.	氏名	出欠	No.	氏名	出欠
1	安在隆芳	○	16	酒井芳男	○
2	飯島恵子	○	17	佐藤一則	
3	生駒憲一	○	18	佐藤友幸	○
4	伊澤昭夫	○	19	塩水常男	○
5	石森則夫	○	20	関谷直人	○
6	磯忠昭	○	21	関谷眞夫	○
7	大野博文	○	22	高根沢武一	
8	岡田幸子	○	23	田代茂樹	○
9	荻原正寿	○	24	寺崎政徳	○
10	落合健太郎		25	人見みゐ子	○
11	河内賢二	○	26	平山明	
12	君島理恵	○	27	平山忠	○
13	工藤海查生		28	松本勇	○
14	児玉幸弘	○	29	八木沢敏子	○
15	五江渕征子	○	30	山島哲夫	○

《 会議の内容 》

1. 開会

2. あいさつ

《会長》

今日の会議は第3回目ということで、いよいよ後期の主要事業についてこれをどうやっていくかという議論が始まる。これから審議の内容も佳境に入ってくるということでよろしく申し上げます。

3. 議事

- (1) 後期基本計画の策定方法について
- (2) 後期基本計画の主要事業（素案）について
- (3) 後期基本計画の成果指標（素案）について

《事務局》

※ 資料1、資料2により説明

《会長》

これは今現段階「素案」ということなので、これを作っていくというのがこれからの作業になるので、現段階で詳しい説明は付いてないということで、なかなか議論しづらいところはあるかと思いますが、基本的に赤字のところは新規事業、それから成果指標も備考欄に「継続」と入っていないところは成果指標を変えている。全体のスケジュールでいくと、今回この内容について議論したことをふまえて基本施策の議論をしていただいて、7月にはもう少し詳しいものが出てきて、という手順になると思う。ということで、今日は素案ですから、自由にいろんな意見を出していただければいいと思うのですが、どうでしょうか。

《委員》

具体的な話に入る前に確認したい。例えばこの「基本施策」や「目指すべき方向」について、私どもの意見があれば「こういう項目を付け加えてください」ということは可能かどうか。二点目に、「基準値」「目標値」が入っているが、この数値はどこから引っ張ってきたものであるか、その基本的なことをまずお聞きしたい。

《事務局》

一点目の質問について、「政策」と「基本施策」については10年間の基本構想の中での施策という形になっているので、基本的にはこの形は残すような形で、現在考えているところである。ただ、「目指すべき方向」や「具体的な施策」については、前期計画4箇年が経過し情勢が変わっているということをふまえて修正を考えて作業に望んでいきたいと考えております。今、各部会のほうでその施策について検討して作業を進めているので、ご意見をいただきたい。二点目について、成果指標の「基準値」「目標値」については、できるかぎり明確に分かりやすいように全部数値で設定するよう各専門部会のほうに投げかけて、出てきたものを今回の一覧表に載せているところである。ただ、数値に表せないものについては、文面的な表現のものもある。

《委員》

主要事業というのは、なぜ主要事業として選ばれているのかお伺いしたい。

《事務局》

前期計画の中でも基本計画の構成の中で、今後推進していく主要事業が掲載されている。後期計画の中においても、当然いろいろな施策を実現するためにいくつかの事業があり、その中から、こちらでは実施計画の基準と同様とした主要事業という形で抽出して、後期計画にも載せていきたいということで考えている。

《会長》

いろいろな事務事業が出てくるわけですから、ここでこれを主要でやるべきだという議論は当然あって然るべきであると思う。今日はひととおりの概要が出ているだけなので、全体を見て、これを主要で頑張るべきだということは、議論としてあると思います。

《委員》

この素案は、アンケート調査結果をどのように生かしたのか。新たなものなどは市民の意見を反映してこうこうします、という差別化、トピックス的なものは、この施策の中には盛り込まれているのか。

《事務局》

今回、アンケート結果や前期基本計画の達成状況をふまえた上で各部会が抽出した主要事業がこの形になっているわけだが、それぞれのアンケートの分析結果というものが今回、この主要事業と成果指標に反映されているかということは、これから施策を考えていくうえで再度検証して、事業あるいは施策の展開につなげたい。今の段階ではまだそこまで切り込んだものではない。

《委員》

基本施策とかではなくて、全体的なことで考えを述べたい。3月11日大規模な震災があつて、福島原発の問題があつて、非常に福島県に近い那須塩原市に私たちは生活している。その中で、この施策全体に新施策を見ていくと、震災後の対応、例えば水道についてこんな風に安全を保っていきたい、それから、子供たちに対する放射能の汚染についてこうしていきたい、などそういう意欲的な面がちょっと少ないのではないか。こういった施策が見られれば、もうちょっと素晴らしいものになるのではないか。また、私は那須塩原市の地震計のある場所は分かっているのですが、そこがわたしの家より安定している。私の家は震度2で塀が倒れた、というような状態。地震計は市が設置しているわけではないが、設置者に対して場所を変えるよう言うてはどうか。そうすれば、近隣市町と同じようなデータがでて市民は安心できるのではないか。震度が大きくて安心するというのはおかしいが、震度が小さく出ていて揺れるというのも不思議なので、そんな関係で、3月11日以降のことをふまえた施策がもっと加われば素晴らしいという考えでいる。

《企画部長》

私のほうからお答えします。まさしくその通りであり、この件については新しい事業等を作り出していくところなので、今後論議して、検討していきたい。特に基本的事項としては防災の関係とエネルギー関係、第1項目の自然と共生するまちづくりの部分での膨らまし方、それから協働のまちづくりの中で反映されるべきではという風に思っており、その辺は今の状態でのエネルギーは国家的な部分もあるんですが、地域でのエネルギー問題、地球温暖化防止等もかかっているのと考えていかなければならないと思っているので、委員の皆様からもそういったご意見、視点から、追加項目等いただければ大変ありがたい。

《会長》

今のところ、自然と共生するまちづくりのところに省エネルギーと新エネルギー導入の検討がちょっと入っているが、この辺のエネルギーの問題がひとつ課題になっていて、これはたぶん部会でも議論されるのではないかと思う。それからもうひとつは、次のページの快適で潤いのあるまちづくりで、災害対策の強化というのが入っておりますが、こういったところも少し膨らませていくのではないかと。いずれにせよ、国がどうするのか分かっていませんが、どうしていいかも分かってない状態でどういうことをやるというのはなかなか難しいとは思いますが、まだ今年いっぱい議論ができるわけですので、その段階で挙げることはいいと思う。

《委員》

成果指標の数字の表し方が、回数であるとか面積であるとか項目によってだいぶバラバラなので、この数字を生かしながら、統一したものに、もっと見やすくできないか。その辺はそれぞれの部会で想定はされているとは思いますが、内容によっては、基準値に対して目標値、どうしてこれになったのかな、という感情を持つものもある。

例えば商業関係なんかは、商店街の活性化で、具体的な施策「個性ある商店街の形成」、

主要事業「イベント関連団体の支援」という項目があるが、中には商店街そのものが非常に今崩れてきているということで、1個1個の商店が、駅前なんかではでシャッター通りになっている。この辺の、いわゆる現段階での表し方を検討していただければ。

《委員》

例えば商店街の活性化といったって、商店街が消えそうだったときにイベントをやったって、ということだと思う。商店街をあきらめちゃうわけにはいかないということだと思う。なかなか難しいとは思いますが、この目指すべき方向に合った事業の指標を設定する、そうしないと基準値、目標値の70%を実施したらいいということにはならないということで、その辺の整理を少しもらえば思う。

《委員》

前回も話したが、地域情報化推進の関係で、市が持っている光ファイバーを民間に開放、開放といっても無制限に開放するわけではないが、これを検討していただきたい。このファイバーは、もともと情報基盤整備ということで我々の給料、税金で整備されている、そんな中で使わないファイバーがあるとしたら非常にもったいない。だからこれを開放して、使用してもらえば収入は入ってくるし、これを使用してケーブルテレビをやりたいという会社が出てくる可能性だってある。今ケーブルテレビというのは約60%加入率がある。栃木県はわずか25%くらいしかない。首都圏にいたってはもう、70%とかそういう感じで、多チャンネル、インターネット、IP電話、そういうものをどんどんやっている。そういういろんな方向ができると思うので、もし余っていて使用見込みがないのであれば、ファイバーの開放を検討していただきたい。

《事務局》

市の光ファイバーを開放するということにつきましては、検討させていただきたいという形でお答えさせてもらいたい。

《会長》

即座に答えられないということだと思う。ただ、基本施策に地域情報化の推進ということがありますが、これは5年前よりはさらに情報化が進んでいる中で、もしこういうところで、拡充できることがあれば。基本施策のできた5年前よりもいろんな状況が変わっているんで、それをふまえての計画だと思う。

《委員》

農業関係で、放射能問題だが今酪農家では牧草の刈り取りを行なっているが乳牛には食べさせてはいけないというふうで、そのままロールにしてあり、今後どうなるか分からない状態に置かれております。田植えも9割程度終わっているが米も9月にモニタリングをしてどうなるかがわからない状態であります。その中でこの資料を見ると、「被災住宅再建等支援事業」ということで住宅なんかは支援事業があるが、農業を見ると、安全・安心・安定した食づくりとか、畜産業の振興などについて、やはりまだ放射能問題のことなどは書かれていないので、これから支援事業がありましたらよろしくお願ひしたい。

《会長》

牧草が使えないのは大変な問題だと思う。そういう問題は非常に大きな問題で、たぶんこれを作っている段階ではっきり出てこないかもしれない。もし出てくれば、これとはまた別に、そういうのをきちっと市として計画を作ったり、やっていくことが必要になると思う。今の段階ではっきり分かっているならば入れておけばいいですが。そうじゃなければそれは、それが分かった段階で、基になる基本施策が入っていればそれを途中で変えてでも作っていくというくらい大きな話だと思う。

《企画部長》

震災の対応について、いわゆる今対応すべきもの、長期的に対応すべきもの、総合計画に入れるべきものと別の動きであるもの、というのはおのずとありますので、その辺の整理も含めて、今後形にしたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

《会長》

その問題を那須塩原市の市の人には忘れていない人は一人もいないはずなので、ここに入れるかは別の議論になるかと思う。

《委員》

それではこの資料に基づいて具体的な話をさせていただきたい。

一点目が、児童福祉の充実という項目の具体的な施策の中に、出産環境の充実というのを取り上げていただきたい。なぜかと言うと、市政・行政は、市民のいのちをつくりまもることであるからご提案を申し上げます。

二点目に、畜産の振興について、ご存知のように本市は牛乳の生産が本州第1位、国内第4位と言われているが、牛乳の製品を直接買ったり、あるいは外来のお客様が製品を買い求める場所というのがあるのかなのか、ぜひそういうものが買える場所の建設、例えばミルクハウスなどというものをひとつどこかに建設をしたら、さらに有効であろうと思う。

三点目、観光の振興というのがあるが、さらに観光を振興するために、検討課題あるいは研究課題でもいいので「医療観光の推進」と「温泉カジノの研究」というものを入れていただきたい。カジノが法律的に触れればダメですけれども、推進あるいは研究ということのひとつ入れていただきたい。

四点目に生涯スポーツの振興のところ、主要事業にハーフマラソン大会が出ているがそれだけに絞ってしまうと、ほかの競技の全国的な規模の大会、関東的な規模の大会がなかなか推進できない。ハーフマラソン大会はこれでいいとして、あとひとつ付け加えて「全国的規模の大会」を入れていただきたい。それから指標に市体育協会会員数というのがあり、4,640人から4,820人となっている。先ほどこの数字は専門部会での数字だとお答えいただいたが、私は体育協会の責任者として目標値5,000人にしたいと考えており、再度ご検討いただきたい。

《会長》

具体的な提案をいろいろいただいて、それはまたそれぞれの部会で議論いただいて、次回に出していただければと思う。ミルクの話は、前期の計画のときに牛乳の生産が本州一だと言ってみたがあまり知られていなかった、というのがある。何で知られてないかというと、那須の牛乳として売っていない。みんな大手の乳業メーカーに売っているというのでなかなか厳しいようですね。そういうことで復興にも繋がると思うが、いろんなアイデアを出していただいて、受け入れられるところはまた検討していただくということ、ただ、酪農の人たちの言い分もいろいろあるでしょうし、そういうところを知りたいですね。

《委員》

有明の国際展示場で、食の展示会が毎年1回開催されており、そのブースに行ったが「那須牛」というのはない。これは会長さんがおっしゃったように、大手メーカーさんのほうに流れているのではないかなと。これそういったところを動かして、活性化して予算をつけて、イベントの中で、パックを配るなりして焼いたら、かなりPR効果がでるのではないかなと思う。

《委員》

活力を創出するまちづくりのところで、雇用・就労環境の充実の中で雇用の促進というのが目指すべき方向のところにあるが、アンケートでも雇用の促進については市民の多くが望んでいるところかなと思う。そこに主要事業が無いというのが残念。主要事業を、数字で示せるような内容を入れていただきたいと思う。

《会長》

各部会のほうで、そういう雇用対策についてはいつも議論になりますから、主要事業として取り上げられるようなものがあれば検討していただきたいと思います。

《委員》

いまの雇用の問題が出たが、役所、行政もなんでも競争競争になって、発注をするのを例えば富士通とかNECとか、こういったとこばかりに発注しては地元にお金が落ちない。地元にお金が落ちなければ税金が入ってこない、地元にお金が落ちなければ人も雇えない、またそこで消費も発生しないということあるので、事業所がもう少し努力をしなくてはいけないが、行政も少しはそのあたりを考えていただければというのが一点。これは答えくださいというわけではないので検討していただければ。

二点目に「地域情報化の促進」で市役所は外部との情報化は進んではいるが、一般の人たちがものすごく情報化が進んでいるかなと言うと、何かそうでもない、もうちょっと市民の、情報化の推進を図る施策があってもいいんじゃないかなというのが、私のひとつの意見。それで、先ほど農林水産業の話がちょっと出たが、総務省でICT地域活性化懇談会というのがありまして、この第1回目が農林水産業のICTの利活用ということだった。農林水産業というのはITが遅れている分野。こういうことをふまえて、行政が農林水産業に対するITの活用にちついて考えているものがありましたらお聞かせ願いたい。

《産業観光部農務畜産課長補佐》

ただいまの件、手元にその関係の資料もなく、市として考えておりませんので、今後部会の中でもその辺のところを検討していきたい。

《会長》

それではですね、全員発言していただきたいので、一言ずつ。

《委員》

先ほどから3月11日の地震のことについて出ていて、それは後から説明するというようなお話だが、一番今気にしているのはそこである。ホームページ、地震計の設置、放射能の測定箇所の対応、栃木県では、那須塩原市は特に情報が入ってこない。知らないから安心、ではすまないと思うので、ぜひこれを早急にやる方法を、この会に関係した事業でないかもしれないが、そのことをお願いしたい。

《委員》

「工業の振興」に関して、主要事業名では工業団地維持管理事業しか入っていないが、那須塩原市の工業団地は全部埋まっているのかどうか聞きたい。

先ほど話のあった雇用促進の充実と当然関連があることで、非常に今、商工業が厳しい時代であるが、引き続きこういう時代であっても雇用促進ということになると新規企業の立地促進というのは条件としてあるということを感じたので、今後主要事業の中で、新規企業の立地促進等に力を入れて雇用促進を図ったらいいと感じた。

《会長》

工場はあまり人を雇わないので、違うものでいけばアウトレット、イオンなど商業センターができていて、ああいうところが一番雇用力はあるという。固定資産税も入ってくる。なかなか難しいと思うが、雇用を生み出すというのは非常に重要なことなので、これはどういうものができるか、いいものが出てくれば非常にすばらしいことなのでご検討をお願いしたい。

《委員》

先ほど那須の牛乳という話があったが、今、那須塩原市も那須町もミルク街道というものがあり、地域の那須だいき牛乳とかガンコ牛乳とかをアピールしているところで、ミルク街道のこれからの目標は、この地の活性化のために、行政とともに、私たち酪農家として、商工会やいろいろな業種の人たちとともにアピールしていく。

基本施策の畜産振興、農業振興の部分には、6次産業化ということも含めての地産地消の推進とかいろんな部分が入っていると思うので、いろいろ内容を知りたいところですが、ミルク街道部分、那須の牛乳部分に対しては、行政とともにやっていきたいと思う。

またシルバークーパー制度推進事業というものを掲げているが、具体的な制度の内容について説明をお願いしたい。シルバークーパー制度登録者数が、今0人から120人という目標値を掲げているが、まずこの内容をもう少し知っていただかなければ、この目標値は達成できないのかなと思う。

《産業観光部農務畜産課長補佐》

まずミルク街道の関係で、基本政策「畜産業の振興」の中の具体的な施策「畜産振興対策の推進」があるが、この主要事業として那須塩原市畜産振興会運営事業が載っているが、このほか7つの事業があり、その中に委員さんの言われたミルク街道推進協議会などを含め、地産地消、牛乳、那須和牛の消費拡大に関する事業等も盛り込んでいる。その中で具体的なPR、推進等を行なっていく。なお今月7日に畜産物の安全安心アピールキャンペーンを2ヶ所の道の駅でやったが、その中でもミルク街道の推進協議会の会員さんのご協力によりPR拡大等を行なったところである。

それからシルバーファーマーの関係で、昨年モデル事業として、意欲のある方、また就農してみたいという気持ちのある方を対象に、8名ほど、予備校のような形で農業研修を行なっていただいた。具体的には今年からその制度を始めている。この考え方は、農業に関心があり、労働の意欲の旺盛な60歳前後の市民を対象に、園芸作物を中心に圃場での実習や机上研修等を通じて生産技術を習得させ、そして、生産技術を持った労働者を求める農業者、市内の農業者における高齢化、労働者不足、労働力不足が続いており、その支援をする方々を養成する。今年度中にはある程度の登録者を出そうと4月から12月にかけての講習を実施しているところである。今48名の方がこの養成の研修のほうに従事、受講いただいている。毎週ではないが日曜日、机上研修、圃場研修を通して技術習得に当たっていただいている状況である。

《委員》

私も農林業あるいは畜産業の振興という点で。市のほうでも昨年度市のブランド認定という動きが大きくなっており、あるいは農観商工連携というような事業を進められているという中で、農協でも、那須和牛とか、ねぎでしたら那須の白美人、那須の春香うど、那須の高原アスパラなど「那須シリーズ」ということでブランド化を進めている。今後ともぜひこの那須塩原の中でも、そういったものを観光地、あるいは管外の消費も合わせて、ぜひ皆さん方で消費を支えていってほしい。外へも発信するが、中からも発信をするというなかで、そういった考えを進めていってほしい。またそのような具体的な検討を盛り込んでいただきたい。

《委員》

全体のことで、難しい注文なのかもしれないが、成果指標に対する基準値も目標値も、大きな部分で市全体で均一した値なんだろうかと。何が言いたいかというと、国というレベルで、一極集中・地域格差があるように、那須塩原もかなり広いのでそういった状況は存在していると認識しており、合併以降それが進んでいるように認識している。そうすると、基準値、目標値で、地域別にそういうファクターを入れるのは難しいのではないかと先ほど言ったが、例えば塩原だけじゃなく、黒磯の中でも板室とかそういう所があるし、それを大きくというかモザイクに市全体を分けて、最終的には市全体の均衡ある発展なのでしょうから、そこはちょっと無視ができない点が多々あるのではないかと考える。

《会長》

非常に重要な指摘で、地域ごとに、市全体で100%といっても、あるところでは120%で、あるところではほとんど進捗していない、ということもありうるわけで、個々の施策には、ある地域を対象にしている施策もあることはあると思う。非常に難しい問題ですが、そういう地域ごとのバランスということも少し部会で検討するときに考えていただきたい。

《委員》

高齢福祉事業の件で、生きがいサロンというのがあるが、この制度があるのはまことに結構であるが、行政区によっては、末端までの周知がなされていないようなので、その辺をお願いしたい。

《会長》

では、よろしくをお願いします。

《委員》

商業・サービス業の振興の件で、ちょっと細かい話になるが、成果指標に市内商工会の経営改善普及事業の指導回数、基準値が8,540回で目標値が9,000回となっている。この経営巡回指導というのは4～5年前から県のほうで非常に力を入れて呼びかけており、実施してきたが、年々指導の内容も専門化してまいりまして、1回の指導が20分、30分で済むような簡単な指導ではなくなってきて、そうすると目標値の9,000回を那須塩原7名、西那須野3名の指導員、計10名でこなすというのはちょっと無理じゃないのかなという感じがする。大変細かい話だがその辺も含めてご検討願いたい。

《会長》

これは回数で評価するよりも、指導内容がちゃんとしているかということで、指標の作り方を少し考え直していただくということで。

《委員》

地域福祉に関して、今回3月11日の災害の後、那須塩原市の避難所で1,000名近いボランティアの支援をいただき、特に塩原温泉旅館組合がバスを出して温泉に入れていただいていた。また、避難所としての役割が終わった後、那須塩原市の姉妹都市ひたちなか市の姉妹都市ということで石巻市へ、市民でボランティア活動をしたいという方々を集め泥出し等の活動を進めている。今回の活動は社会福祉協議会やボランティア連絡協議会だけではなくて、市の側面的な協力、そして「協働のまちづくり」ということから見ると、名実ともにそのような取り組みと思われる。栃木県内でも行政と社会福祉協議会、そしてボランティア連絡協議会が連携を組んでこのような活動をしているのは那須塩原市だけというふうに私は理解をしいる。これから、ボランティア精神を持っている市民の参加の場をどうやって作っていくかということ、この計画の中で進めていかなければいけないと考えている。またボランティア連絡協議会は、ボランティアをしている方々へのボランティアをしてきた。その際に石巻で活動をしているということと合わせて、那須塩原市が5

月から始めた「キャッシュバックキャンペーン」のチラシを、石巻のボランティアセンターの中で暮らしている皆さんに、お帰りには那須塩原に泊まってほしい、そんな風なチラシを配布してきた。どう功を奏したかはわかりませんが、ボランティア活動をしながらも地元のPRをしていける、そんな風な、ひとつの協働のかたちができのかな、というふうに思う。また、ボランティア活動を進めていくには、中学生・高校生の理解というのが大変大切で、ボランティア精神を考える場を作ってもらえればと思う。

《委員》

防犯対策の中で、那須塩原駅の西口のメイン道路がとても暗い。街灯がついているが大変暗いということと、通学路に歩道がなく、街灯がやはり暗い。区画整理が数年前に済んでいるが、防犯灯が全然付いてなくお願いはしたんが、何らかの理由があるのか、なかなか未だに付けていただけない。先に事故があつてからでは間に合わないので、ぜひ防犯灯、街灯を設置していただきたい。

《委員》

先ほど委員さんが言ったことに関係するが、大震災以前と以後ということで、後期計画が後にきたわけですが、そんな中で今問われているように、社会のあり方、特に電力、電気に対する社会のあり方が問われており、今素案の中でもあまり出ていないというのは非常に残念に思う。やはり、その視点でもう一度見直すということは大切なんじゃないかなと思う。

《委員》

まず農産物PRについて、先ほど東京の展示会というご意見があつたが、私毎年食品関係の展示会のほうに年2回ほど行っているが、やはり栃木県は県全体がPR活動遅れていると感じ、県の方にも何回か申し上げたことがある。ただ、じゃあ那須塩原のおいしい牛乳を持っていけばいいかというそういう問題ではなくて、一番大事なのはやはり6次産業、新しい商品の開発、牛乳を使ったおいしい製品、加工品をもっていく。これからは農商工の連携で展開、那須塩原ブランドの充実を図って、宇都宮の宮マルシェとか、栃木県のマルシェ栃木などあるが、そういったところに那須塩原としても食い込んでいく必要がある。これだけ農産物が充実した市、全国的に探しても本当に無いと思うので、そういう必要性があると感じる。

あとシルバーファーマー、これは非常に今後良い事業ではないかなと思う。積極的にやっていたきたい。

あと学校関係のことで気が付いたことで、成果指標に「小中一貫教育校の学校数」というのがあり、基準値が0校、目標値が10校である。いきなり0から10というのはすごい数、いきなりはどうかと思う。今、何校か小学校統廃合という話もあつたが地元の方たちの反対も非常に強く、子どもを通わせている親御さんの気持ちとすると、通学の安全面とか地域の連携、やはり小学校というのは地域コミュニティの核になるところなので、早急にやるのは非常に危ないことではないかなと思う。あと、適正校の数について私の感覚と

して市内の中学校の数があまりにも少なすぎる。この人口増加に比較して、特に西那須野地区が非常に少ない。皆、自転車通学を余儀なくされている。自転車事故の一番大きい年代はやはり中学生である。昨年市内の中学生が亡くなったがこういったことが根底にあるのではないかと思う。なるべく徒歩での通学、またはスクールバスなど、なるべく自転車に乗らなくてもすむ方法を大人たちが考えてあげなくてはいけないのではないか。併せて小中学生の安全な通学路の確保が大事な問題になってくる。

あとよく分からないのですが、環境保全ということに関し、最近感じるのが、千本松あたりの松の枯れが以前と比べるとちょっと目立っているのではないか。これがいったい何を意味するのか全く分からないが、また今年も秋にそういう事になるとすれば、将来のことを考えたとき、ちょっと着目していかなければいけないのではないか。

最後に、震災以前、以降、これはものすごく大きな問題だと思う。観光業、商業、工業、農業も。子を持つ親の心配は、おそらく皆さんが感じている数倍強いものだと思う。先ほど情報が無いから安全かとおっしゃっていた人がいたが、本当にその通りで、那須塩原市は情報がちょっと少なすぎる。今ネット上にもものすごく個人個人の情報が独り歩きしてしまっているので、勝手にあちこち測定をし、その測定値をネット上で公表している。いくらでも個人がネット上で発信できる時代なので、できれば市という公の立場がちゃんと情報公開をしていかないと、未来が、不安ばかりが先走ってしまい、観光業も風評被害で大打撃を受けたし、農業も大打撃を受けてしまう。あとはこの地域でも独自に幼稚園などで、園庭の土を入れ替えているところもあると聞いている。子どもの安全も確保するためにも、そういったことが必要になってくる。今後この後期計画を見据えた場合に、子どもの定期的な健康診断なども入れたほうがいいのではないか、検討していただきたい。

《会長》

いろいろ貴重な意見があったが、今日一つ一つ答えるのではなく、次回に反映していただくことでお願いしたい。

《委員》

保健の、健康維持ということで、市民の健康メンタルケアサービスということで、観光協会からも提言しているが、定期的に板室・塩原・西那須野の温泉施設を利用しながら高齢者のメンタルケアサービスにつなげていただきたい。

地域情報化の推進に関して、地域の回覧板の関係ですが、全市民へのコンピューターのオンライン化も含めて、情報の共有と発信をして、商業の発展と、それから観光も、農業もすべて情報を共有するという作業を、未来の先進地の市として進めていくということを提言させていただきたい。

《委員》

地震の件について、やはり一致協力して助けるというような強い信念を持って地震を解決する。それには常日頃の訓練が必要かと思う。私の家でも、柱に非常の場合の持ち出し物、避難場所、それから食料、懐中電灯、常日頃からの訓練、そのようなものを用意して

ある。そういう面で、足りないものがあつた場合は、早目の対応、早期、初動捜査、これがやはり何かと必要かと思う。また、道路が陥没していたり、大谷石で塞がれていては車が通れなく、交通手段がないと動きが取れない。そういう面で、協力して災害復旧に進むべきという方向が必要だと思う。

《委員》

姉妹都市の関係で、姉妹都市交流が2回と書いてあるが、そのうちの1回は私だと思うが、事業としては非常に充実した事業だと思っているが、予算が非常に厳しいので、その辺のところを考えていただきたい。

高齢者福祉の件で、先ほどもサロンについての整備が足りないんじゃないかということが出てたようだが、若干足りないような気がするところがあるので考えていただきたい。

それから文化関係で、具体的な施策「団体の育成・強化」ということがあるが、団体がだんだん弱くなって、しかも会員が減ってきているような様子で、そこで追い討ちをかけ、予算を削ってもいいというようなことを言われている。なので、この文字に対する意味が少し違うのかなと思うので、会員を減らさないように運動するとか、あるいは中身を濃くするというようなことを叫んでいただけるような方向を取って、予算のほうはあまり触らないでいただきたい。

それから国際交流の件で、今、外国人支援センターを3年計画でやっているが、今年が3年目。比較的大田原市のほうからも交際交流の支援の相談に来ている。もう少し延期ができるなら、1年でも2年でも延期をさせて、国際的な交流の支援をさせていただければと思う。

《委員》

市内は道路整備もできて便利になっているが、通学路の歩道が設置されていない危険箇所はまだ相当あるので、そういった整備を早急に進めてもらいたい。犠牲者が出て改めてやるような、鹿沼のクレーン事故とか、あれだけ歩道が広いところでも現状起きている、想定外がありえるということ、想定外でも安全をきちんと守れることをしなくてははいけない。それと同時に、先ほどから震災後の対応について話があつたが、安心安全なまちづくりは、きちんと知らせるということが一番の条件だと思う。正しいもの、いいもの悪いものを、きちんと知らせるということをしていただきたい。やはり今皆さんが一番気になっているのは、放射能の値だと思うが、まだ那須町での情報。やはり市できちんと対応して、正しい情報を流していただきたい。

《委員》

前期から関わっていますので、前期のときの「大好き那須塩原 未来への約束」というのがどこまで検証されているのかなという思いで、後期も考えている。それで一つは先ほどブランドの話もありましたけど、那須塩原市モデル、独自の形ができないかなと思つている。その意味ではトップダウンという市の皆さんの一人ひとりの意識が変わらないといけないのかなと思つつつ、そういう意味ではやっぱり、農業も観光業も商業も工業も連動

する形での何かを作り出すというのが必要なのかなと思う。例えで言うと、中心街活性化とか、街中の賑わいとかに直接深く関わる西那須野駅前の事業、もう終わっているけど、でもそこで人は動いているか？というあたり。そうするとやっぱり産業観光部会とか、行政の方たちが部会を越えて、縦割りではない横のつながりというのでしょうか、そういう部分でまちづくりを重ねていくと、保健福祉も関わってくる。まず縦割りになってしまっている部分を取り外してつながっていく、そういう形をぜひお願いしたい。

《委員》

震災により、西那須野地区の観光施設、メインの田園空間博物館の遺跡がめっちゃめっちゃになりまして、いろいろそれを見ながら、こういうものを我々の観光にどういう風に活用していったらいいかなと、そんな風に思った。

それから芸術・文化活動の振興の件で、市の産業文化の中で表彰がありそういう年間の表彰の中で、もちろん人の命が一番大事ですから、消防とか交通安全の関連の方は表彰を受けるわけですがけれども、その次に大事なのは人の心で、その人の心を育むのは芸術・文化なので、できれば市の顕彰制度の中にこういう面での長年のボランティア活動か何かで貢献している方があれば、表彰をするようなものがあればいいと思う。

《委員》

先ほどの社会福祉協議会の事業、特にこういう災害の時の活動というのは重要で必要なところだが、社会福祉協議会普通会員数というのがなかなか増えないというの実情がある。この数字を、もう少し目標値を大きくもって、行政が各自治会に指導して会員をとにかく増やすという努力をしていただきたい。

自主防災組織の結成について、補助事業でお金を出しますから、各地域に作ってほしいというようなお話かと思うが、昔から農村地域のように横のつながりができているところはいいが、他の市町村から来た人たちの集まりというところでは、防災組織を作るのが難しいのではないかと心配している。

それと児童クラブの件で、児童クラブの受入人数を成果指標に挙げているが、これは本当に今児童クラブでは人数が増えて、それに対する指導員の数がなくて本当に困っている。受け入れ人数よりもむしろ「設置件数」をというふうに替えていただきたいと思う。

《委員》

前にテレビで見たが、男性と女性は脳の構造が違うという。それで小学校の高学年から、男女別に教育を分けるという教育をアメリカではしていると。そのほうが勉強ができるようになるという話をしていた。それで、その件で教育の関係で検討をしているかどうか、何かあればちょっと教えていただきたい。

《会長》

そこはたぶん、市のほうはしていないと思うし、確かに脳の構造は違うみたいですが、ちょっと今の社会の状況ではうまくいかないだろうと思う。栃木県みたいに男女別に高校をやっているところが全国的に珍しいということですので、そういうご意見があっ

たということだ。

《委員》

第1次的那須塩原市の総合計画、先ほども出ましたが「未来への約束」、私たちはこれを作ったとき感動したんですね。じゃあ私たちは誰に約束している。小中学校、幼稚園という今小さい子どもたちに約束する。それを頭に置いて施策を作っていただきたい。

《会長》

まだいろいろ意見があると思いますが、今日は本当に活発ないろいろな意見が出て、後ろに市の主要なメンバーが全部おられるので、今日の話はしっかり聞かれて、これがまた反映されると思います。

《委員》

地球環境保全の部分で、ごみ減量協力店推進及び顕彰事業がでているが、那須塩原市で「協働のまちづくり」という点で、ごみ減量のごみステーションの設置と住民というのは住民と行政との協働でできあがった唯一の大きな事業、成果の挙げた事業と思う。それを考えたときに、ごみステーションに対する管理が行き届いているときの顕彰は考えているのか。

それから3月11日の件について、いろいろご意見が出ているが、防災組織については、当然大きく見直しをしていかなくちゃならないと考える。今まで実施してきた自主防災の組織、これの活動については、何の役にも立たなかった。想定外ということがよく分かった。早急に見直しをしなければならないだろうと思う。

先程から出ている、安心して生活できる環境、というようなことで放射能汚染がありますが、今のところ施策としては何ら打ち出されていない。従ってこれについても、大至急何らかの手立てを講じていただきたい。そのように住民はもう申しているだろう。これはアンケートには無かったことですから、後から起きたことなので、今日出たものについては早急に考えていただきたい。

それから、幼児についていろいろ出ているが、男女共同参画というようなことで考えると、子どもを預けて職場に出るといってお母さん方が、10年前から比べると相当数のお母さん方が働きに出て、活動をしていた。幼児のときには親の言うことを聞いて保育所に預けられる、しかし大きくなり学童保育になると、子どもは「なぜお母さんと一緒にいられない」というような悩みを持つ。そういうようなことを考えたときに、学童保育というものも、4倍ほど利用者が多く、これらの施策についても考えていただかなくてはならない。

もう一つ大きなことは、予算、市の財政上のことから考えたときの問題で、小中学校の設備について、予算を組むときにある程度年次計画を立てる、いわゆる予算の計画をしていただかないと、大きな財源を必要とするような設備事業については、予算が付かなくなるのではないかと。財政を立て直して積み立てをしていって、将来こういう事業に使いたいというような計画を考えていただきたい。

《会長》

非常に活発な意見で、いろいろな要望がありましたが、それは全部がたぶん入ることではなくて、またいろんなもののバランスを見て、この場でもまた議論をしていくことになるだろうと思います。今日のいろんな議論をふまえて、市の主要なメンバーの方がおられますが、そこで検討していただいて、またこの場で議題する形にしたいと思います。

4 閉会